

第2回 ポスト・コロナの市民連帯を展望する研究会

日時：2021年 9月 11日（土）
13時 30分 ～ 16時

場所：生活クラブ オルタナティブ生活館
（新横浜駅下車徒歩13分）※オンライン併用

講演：岡田 百合子さん

NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会 副理事長



<講演テーマ>

座間市就労準備支援事業の実践を通して ポスト・コロナの市民連帯を展望する

ワーカーズ・コレクティブが200団体以上になった頃から、神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会が中間支援組織としてすべての神奈川県内のワーカーズ・コレクティブを網羅し支援を担うと同時に起業からコンサル、制度提言から生活クラブ運動グループとの連携など、多岐に渡る活動を当時の変わりあう役員と事務局体制では限りが見えてきました。

そこで、神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会は、社会にワーカーズ・コレクティブ運動を発信し同質性の強い組織から多様な人達の参加を広げ、地域で安心して暮らせる社会づくりへの寄与をめざし、新たにワーカーズ・コレクティブ協会を生み出しました。（2004年5月）その使命を持って、ワーカーズ・コレクティブ協会はひたすら外へ活動を広げ、同じ志をもつ団体との連携・協力関係を広げてきました。働くことが困難な方たちへの就労支援という比較的新しい活動・事業はまさにお手本もなく、様々な団体、研究者との出会いを通して助言をいただきながら歩んできました。前回、講演された藤井敦さんや田中夏子さんからは、長きにわたって私たちの活動への理解と協力をいただいております。

ワーカーズ・コレクティブ協会は、現在、自主事業の他に困窮者自立支援制度の就労準備支援事業を生活クラブ生協と共同企業体として、神奈川県、座間市、平塚市から受託しています。ここでは、地域の市民との連帯なくしては利用者の暮らしを継続できません。

今日は、ワーカーズ・コレクティブ協会の就労支援活動の経過と座間市就労準備支援事業「はたらっく・ざま」の活動が、「サブシステム・エコノミー」の実態づくりであること、そしてポスト・コロナの社会はどうあるべきか気づいたこととお話したいと思います。

プロフィール

プロフィール

1980年代半ばから生活クラブ運動に関わる。相模原準備委員時代は支部づくり（豚肉取組み）に邁進するとともに代理人選挙にも取り組む。1986年チェルノブイリ原発事故をキッカケに県央エリアで反原発運動の組織をつくる。厚木基地を取り囲む“人間の鎖”や反基地ツアーも行った。手狭になった海老名センターからエリア拡大のために相模原センター建設づくりに取り組んだ。生活クラブ相模設立（1992年）時の理事長である。その後ワーカーズ・コレクティブ運動へと転身。ワーカーズ・コレクティブ連合会事務局長・専務理事を経て、「運動の社会化」に向けてワーカーズ・コレクティブ協会の設立（2004年）に参画。協会では、障がい者の就労支援・若者の就労支援など、生きづらさを抱える人たちの支援に先駆的に取り組む。座間市・湯河原町（神奈川県事業）・平塚市の生活困窮者の就労準備支援事業展開では中心的な役割を果たす。現在ワーカーズ・コレクティブ協会副理事長。

【連絡先】公益財団法人かながわ生き生き市民基金

下記アドレスに氏名、所属等、メールアドレスを送ってください。

Mail：info@lively-citizens-fund.org

先着50名

研究会の開催目的・・・呼びかけ文から

一年前を振り返ると、コロナ情報がテレビ・新聞・ネットニュースから一方的に流され、感染リスクが高い仕事、医師や看護師など医療現場で働いている人や家族に対する社会的忌避（子どもを保育園に預けられなくなる等）が起こりました。隣の人のことを気にすること、地域で何が起きているか、議論することが殆ど無くなりました。ココの関係は分断され、「公共空間」が衰退し、権力（行政・政治）が剥き出しになって社会をコントロールし始めました。「不要不急」が上から決められることに抗しがたいムードがつくれ、感染すること自体が罪悪視される風潮が強まりました。コロナ禍が市民社会に与えた影響の一番は、公共空間・言論空間の弱体化だと、私は考えます。それは民主主義の後退であり、1年経った今も続いていると言わねばなりません。

しかし一方で、コロナ禍にあっても、課題解決に取り組む市民団体が増えていきます。食の分かち合い運動（フードバンクやフードパントリー）、子どもの教育への地域的取組み（無料学習支援）、社会的孤立への支援（ひきこもり支援・DV被害者支援）など、制度的な解決が及んでいない課題解決に多くの団体がチャレンジしています。これらの活動は市民社会のこれからとて大いなる希望です。

中間支援組織はこれら活動の現場をエンパワメントする役割を担っています。ポスト・コロナの時代、県内の中間支援組織は、どのような役割・機能を発揮できるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

= 今後の開催予定 =

第3回

(仮題) コロナ禍のフードバンク運動の実践と今後の展望

- ◆ 日 時：2021年10月2日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館5Fまなびや
- ◆ 講 師：藤田誠さん（フードバンクかながわ事務局長）
荻原妙子さん（フードバンクかながわスタッフ/
かながわ生き生き市民基金地域連携コーディネーター）

第4回

(仮題) 休眠預金を活用した市民団体支援活動の現状報告と中間支援組織の今後のあり方について

- ◆ 日 時：10月30日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館5Fまなびや
- ◆ 講 師：小林幸治さん（認定NPO法人まちぽっと事務局長）

第5回

(仮題) コロナ禍で横浜市社協が取り組んだ生活弱者（ひとり親・大学生）支援と食料支援活動の今後の地域的展開について

- ◆ 日 時：2021年11月20日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館5Fまなびや
- ◆ 講 師：池田誠司さん（横浜市社会福祉協議会地域福祉担当部長）

第6回

(仮題) ポスト・コロナ時代のNPOの課題と展望

- ◆ 日 時：2021年12月4日（土）13時30分～16時 ※オンライン併用
- ◆ 場 所：オルタナティブ生活館5Fまなびや
- ◆ 講 師：鈴木健一さん
(特非) まちづくり情報センターかながわ (通称アリスセンター) 理事